

平成 16 年 2 月 25 日

国際石油開発(株)(インペックス)
東京都渋谷区恵比寿 4 丁目 1 番 18 号
代表取締役社長 松尾 邦彦

カザフスタン共和国 北カスピ海沖合鉦区におけるカシャガン油田の
開発計画承認について

国際石油開発株式会社（インペックス）は、同社子会社インペックス北カスピ海石油(株)が日欧米 7 社から構成される国際コンソーシアムのメンバーとして参画し探鉱・評価事業を推進しているカザフスタン共和国 北カスピ海沖合鉦区のカシャガン油田について、本日 2 月 25 日、同国の首都アスタナ市にてカザフスタン政府より同油田の開発計画に対する承認を受けた。

国際コンソーシアムは、今回開発計画が承認されたことよりカシャガン油田の開発を段階的に行い、2008 年に日産 7 万 5 千バレルで生産を開始し、2010 年には日産 45 万バレル達成を目標としている。その後開発地域を広げ、段階的に日産 120 万バレルまで引き上げることを計画している。一方、随伴して生産されるガスは、原油回収の増進及び硫黄留分の削減を目的に油層へ圧入することとしている。

過去 30 年で最大の発見であるカシャガン油田は、ガス圧入による増産効果により累計生産量が 130 億バレルとなることが期待されている。開発作業の総費用は 290 億ドルと見込まれる。

また、カシャガン油田の開発は、厳しい自然条件の中、国際コンソーシアムにより世界最高水準の技術・英知を結集し、周囲の環境に細心の配慮を払いながら作業を推進していく一方、カザフスタンの原油輸出収入の増加並びに同国雇用機会の創出、国民経済の向上に大きく貢献することが期待されている。

なお、国際コンソーシアムは、伊国 Eni（参加権益比率 16.67%）をオペレーターとし、英国 British Gas（16.67%）、米国 ExxonMobil（16.67%）、英蘭 Shell（16.67%）、仏国 Total（16.67%）、米国 ConocoPhillips（8.33%）、当社(8.33%)により構成されている。

※) 補足説明

1.北カスピ海鉦区は、東部約 4,300k m²、西部約 1,275k m²（合計約 5,575k m²）の 2 つのブ

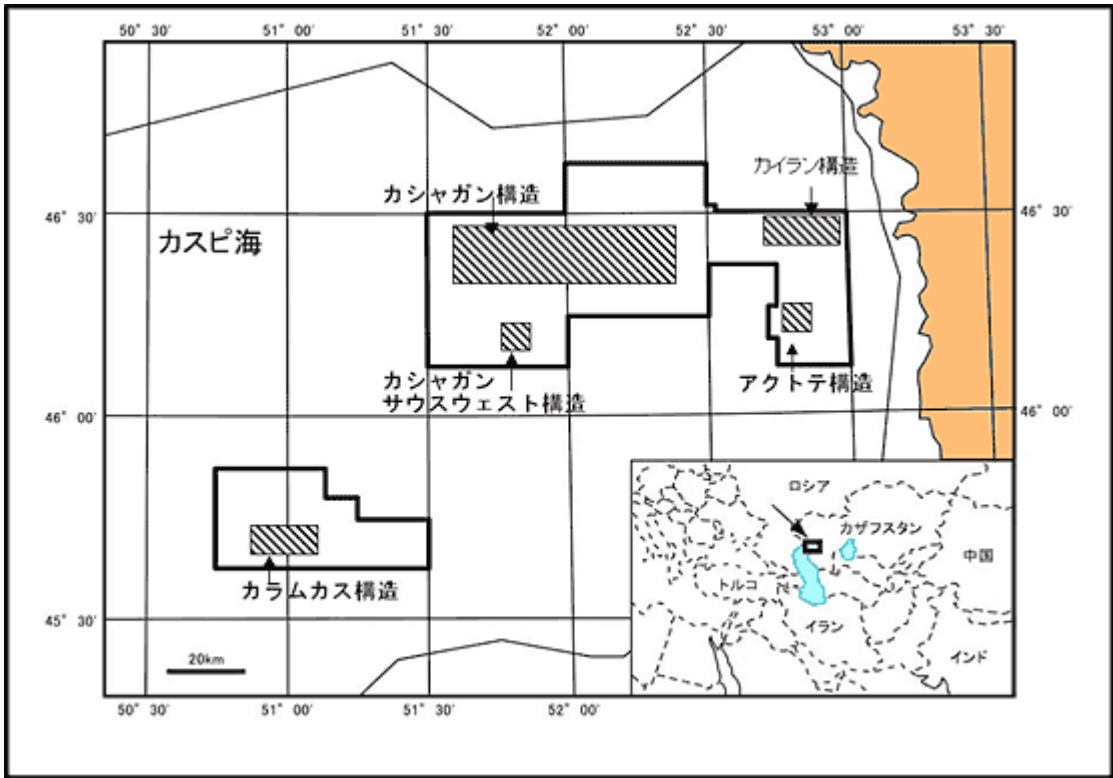
ロックよりなり、今回開発計画が承認されたカシャガン油田は、カザフスタン共和国アテ
イラウから南東 70km、水深 3～5m の東部ブロックに位置する。

2.カシャガン油田は、2000 年 6 月の試掘第一号井での発見後、さらに試掘井及び評価井を
掘削し、2002 年 6 月には商業発見宣言を行っている。その後これまでの探鉱作業をもとに
開発計画を策定してきた。

3.同鉱区では、カラムカス構造、カシャガンサウスウエスト構造及びアクトテ構造の 3 構造
でも炭化水素の胚胎を確認しており、さらに、それら構造以外にもカイラン構造が残って
おり、現在、同構造への掘削作業は継続中である。

4.国際石油開発(株)は、平成 10 年 9 月に本鉱区の権益の 1/14 をカザフスタンの国営石油会社
K C S (Kazakhstan Caspian Shelf) 社から弊社の子会社であるインペックス北カスピ
海石油 (株) を通じて取得し、欧米コンソーシアムの一員となり、その後、BP 社および
Statoil 社との間で 2001 年 9 月に各々、締結された権益譲渡協定に基づき鉱区権益を追加
取得している。

5.インペックス北カスピ海石油 (株) は、1998 年 8 月に設立され、石油公団の投融資を受
けるとともに、石油資源開発 (株) および三菱商事 (株) からの出資を受けている。(2004
年 1 月末時点の資本金は、416 億 6 千万円、出資比率は、石油公団 : 50%、インペックス :
45%、石油資源開発および三菱商事 : 各 2.5%)



カザフスタン共和国北カスピ海沖合鉱区図